

事業概要書（ひちくボランティアセンター）

事業名	H30年7月豪雨 愛媛県宇和島市「被災地域間の支え合いの土台づくり」事業				
開始日	2018年10月1日	終了日	2019年6月30日	日数	273日
団体名	ひちくボランティアセンター				
(カウンターパート)	宇和島市社会福祉協議会、宇和島市役所（避難所支援）、玉津自治会				
担当者名	松永、河津	スタッフ人数	8名		

事業費総額（税込）	2,000,000円
CF事業枠	2,000,000円
その他資金	0円

事業目的	被災者の生活再建及び、水害先災地の学びを活かした被災地間の支え合いの土台づくり
事業全体の概要	<p>●<u>ひちくボランティアセンターとは</u></p> <p>2017年7月5日のH29年九州北部豪雨水害（H29災）で甚大な被害を受けた大分県日田市において民間支援団体で形成されたネットワーク団体で、行政や市社協と連携しながら、被災者ニーズの対応とボランティアの受け皿として活動。日田市はH24年九州北部豪雨や熊本地震でも被災し5年間に3度も激甚災害に遭った全国でも珍しい地域である。次の災害に向けて災害に強いまちづくりを目的とし、H29災の被災者支援の一環で、泥出しボランティアや交流の場づくりとして地域の交流会の開催、みなし仮設住宅入居者支援などを行っている。また、日田市だけではなく被災した朝倉市や東峰村などとも情報交換をしつつ連携して活動している。</p> <p>代表：江田泉（鶴の恩返し） 世話人団体：鶴の恩返し/ボランティアネットワーク チーム大分/NPO法人ひたにわ/NPO法人学び合い</p> <p>●<u>「チーム大分」とは</u></p> <p>主に日田市在住のメンバーで構成され、東日本大震災熊本地震など多くの被災現場で支援活動を行っており、昨年の九州北部豪雨では初動期から約一年間支援活動を行ってきた。今回のH30年7月豪雨では近隣の福岡県久留米市へ支援に入り、宇和島市には7月末より現地入りして活動を泥出しやプロボノ支援などを行う。</p> <p>●<u>「鶴の恩返し」とは</u></p> <p>H27年の熊本地震より災害支援活動をスタートした団体で、昨年の九州北部豪雨では代表自らも被災したにも関わらず、発災当初から地元日田市大鶴地区で支援活動を行っている。</p>

●取り組むべき課題

・自宅の復旧の見通しが立たない被災者は長期の避難生活が続いている。水害時は泥出し支援が優先され、避難所や仮設住宅等の被災者へソフト面の支援を行う団体が少なく、被災者の息抜きの場が求められる。

・宇和島市吉田町の基幹産業でもあるみかん畑に甚大な被害が出ている。近年はみかんの価格が安定してきたため、若者が U ターンで戻りみかん業に従事しているが今回の被害を受けたため、今後の生業が懸念される。

●パートナー協働プログラム対象事業

①被災者の憩いの場作り支援

日田市天瀬温泉を使った「足湯」を被災地へ運び、被災者の心身をほぐし、憩いの場づくりを行う。

②被災地同士の地域間交流

宇和島市の住民を日田市へ招き、他の被災地の状況やその地域の住民との交流の場づくりを行い、現場から束の間離れることでガス抜きを促す。宇和島みかんの規格外品の販促進等を行う。現地のニーズにそくした支援活動をおこなう。

また、宇和島市の子ども達を日田市へ招待し交流会を開催する。

●期待される効果

被災した教訓を生かした宇和島市への支援を行うことで復旧の早期化と、お互いに「災害に強いまちづくり」の意識を高めていく。

宇和島市支援に H29 災の被災者も参画してもらう（被災者から支援者へ）ことで、宇和島市の被災者への元気付けや日田市の復興の後押しとなる。

長年災害がなかった地域でどうしてよいかわからないのが現状であり、避難所生活も長引いている。そんな住民や自治会長の本音を引き出してもらい、行政・社協へ共有しつつよりニーズに合ったサポートを展開できるような場づくりを行う。

宇和島市の住民を日田市へ招き、住民同士で交流しつつ、昨年の被災地の復興状況を知ってもらう。そのことで復興への意欲を高め、自助・共助・公助での改良・復旧・復興を目指す。また愛媛県のみかん栽培の 40%以上を占める宇和島市のみかん農地が被災し、家も被災したことで摘果や消毒作業が出来ない状況であり、商品とならないものが増加する見込みがある。そのみかんの販促も行うことで生きがいや生業支援に繋げる。また宇和島市の子どもと日田市の子ども達との交流を通じてお互いが元気を取り戻す効果も期待している。

事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)

裨益者 (誰が、何人)

① 被災者の憩いの場作り支援

避難所や仮設住宅等でお茶会や足湯などソフト面の支援を行い、被災者の心身をほぐし、憩いの場づくりを行う。

宇和島市吉田町、
5000 人

<p>② 被災地同士の地域間交流</p> <p>宇和島市の住民を日田市へ招き、他の被災地の状況やその地域の住民との交流の場づくりを行い、現場から束の間離れることでガス抜きを促す。宇和島みかんの規格外品の販促促進等を行う。また宇和島市の子ども達を日田市へ招待し交流を図り互いに元気づける。</p>	<p>避難生活者</p> <p>60人</p>
---	-------------------------